

### 中国側報道3.

『佳木斯日報ネット版』2015年9月14日（新聞形式では『三江晩報』）

## 日中友好協会大阪府連合会佳木斯訪問団到着

13日午前、日中友好協会大阪府連合会平和友好訪問団が当市に到着し、中国で犠牲となった国際主義戦士緑川英子（長谷川テル）を追悼する式典が執り行われた。緑川英子の遺児長谷川暁子女史が一行に同行した。

佳木斯市政府陳代文副市長は訪問団一行と会見し、日本の友人の訪問を熱烈に歓迎すると語った。陳代文副市長は会見で次のように指摘した。「歴史は忘れてはなりませんし、それを改竄したり、それに背いたりするのはもってのほかのことです。中国は本年9月3日大パレードを挙行し、中国人民の偉大なる抗日戦争勝利および世界反ファシズム戦争勝利70周年を盛大に記念したところであります。その主題は正義を守り、平和を限りなく尊重することにあります。同時に、日本軍国主義者が卑劣な侵略戦争を発動した時、日本人民の中に正義と平和を呼びかけた人々がいたことを、私どもははっきりと記憶いたしております。長谷川テル（緑川英子）女史こそ、その傑出した代表者であります。女史は明確に断固として、正義ある中国人民の側に立ちました。テル女史は中日両国人民の優秀な娘であります。



70年後の今日、女史の娘長谷川暁子女史もまた父母の意思を受け継いで平和と正義の事業のために努力されております。本日、友人の皆さんと共に陵墓を清められ、中日両国人民の平和と正義の事業のための新たな努力を踏み出されました。皆さん方は中日両国人民の真の使者であります」。

訪問団山本恒人団長は次のように語った。「訪問団のメンバーは長谷川暁子さんと共に、長谷川テル女史・夫劉仁先生の陵墓の前に立ち、あらためて誓いました。お二人のたゆみない努力は人々を限りなく勇気づけるものであります。とりわけ若い世代が戦争を理解し、歴史を銘記し、平和を慈しみ、日中友好の精神を引き継いでくれることが大切です。私は、若者たちが日中友好の事業を継承し、両国人民の友好交流の懸け橋となってくれることを願ってやみません」。

一行は当市滞在中陵墓での式典のほか、市博物館を参観した。